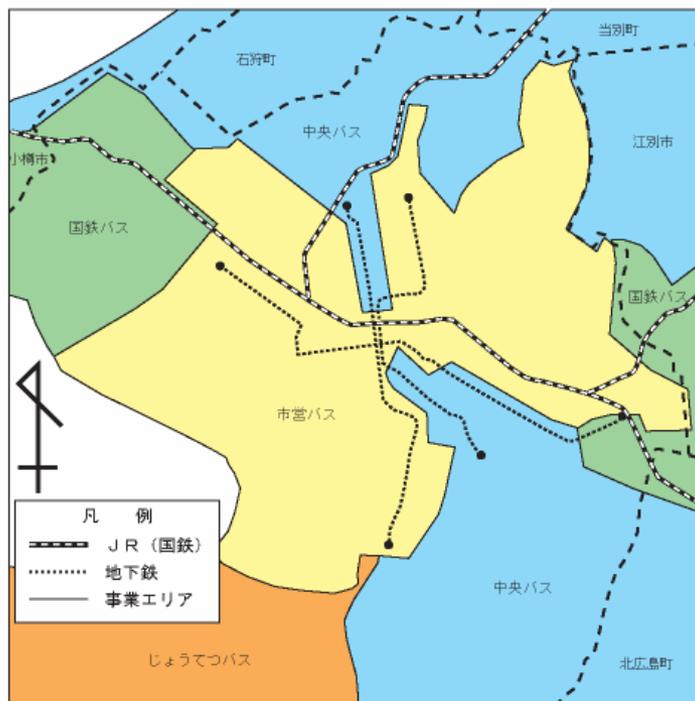
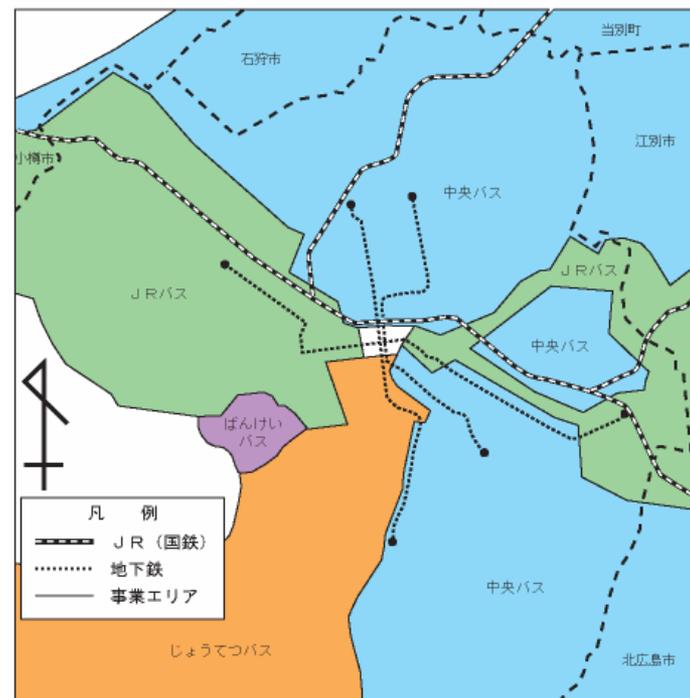


札幌圏 バス系統ナンバリング状況について

1972年 輸送エリア(地下鉄開業後)



2004年 輸送エリア(市営交通譲渡後)



＜札幌市内 バス運行状況(5社合計)・・・直近データ＞
 札幌市域運行系統数 770系統
 // 運行便数(平日) 約26,000便/日
 // 輸送人員 1億700万人/年

2018年2月1日

北海道中央バス株式会社
 二階堂

現在のナンバリング状況

- 札幌市の公共交通体系が『地下鉄を基軸としたバスネットワーク網の構築』としている。
- 基本的には札幌都心から放射線状にバスが“直通便”として運行されており、また主要な地下鉄駅、JR駅からは“短絡便”として運行されている。
- 系統番号については各社ほぼ同じ考えであるが、直通便については番号(最大3桁)のみで、短絡便については駅名の頭文字を番号の頭につけている。
　　<例:地下鉄麻生駅発着便【麻12】>
- なお番号については、各社毎に、方面別に分けられている。
　　(別紙資料参照)

平成25年 札幌地区3事業者

(じょうてつ、ジェイアール北海道バス、当社)による

「札幌市内バス利便性向上委員会」

を発足

1. 路線系統番号の見直し
2. 停留所名のわかりやすい表示
3. 停留所におけるわかりやすい案内表示
4. 札幌駅周辺のわかりやすい「のりば案内」
5. エリア別路線図、時刻表の作成 …等

各ワーキングを実施し、実現へ向けた検討をしてきた。

現在までの成果

(1) バス停留所名称の統一

- ・同一箇所でも、まちまちであった名称の統一

(2) 停留所名のわかりやすい表示

- ・「条丁目」の統一表示
“2—3” → “2条3丁目”
- ・わかりやすい目標物に改称
“第三横線” → “消防学校”

(3) 札幌駅周辺のわかりやすい「のりば案内」

- ・バスターミナルの入口がわかりにくい → ドアに表示
- ・JR駅改札からの誘導版が不足 → 今後関係機関と検討

(4) エリア別路線図、時刻表の作成

- ・ワーキングで協議 → 「さっぽろバス虎の巻」
平成28年度発刊(約300万円)
- ・一定の評価 → 平成29年度改版(約200万円)

(5) バスロケの導入

- ・政令指定都市で唯一、導入していない
- ・札幌市も導入支援策として補助条例施行
- ・国の補助金支援を受け、具体的に導入計画(平成30年度～)



バス系統ナンバリング

委員会発足当初から議論を進めてきているが、検討の方向性を残したまま継続状態

<議論の内容>

- ・各社とも現状が最適・最良とは思っていない
- ・系統番号と併せ、行き先表示の在り方も検討する
- ・現行はどちらかという地元向き。ストレンジャーへのわかりやすさに課題がある。
- ・変更により、日常的な利用者に不便かけてしまう
- ・一時的にはあるが、変更等に伴う費用が発生する
- ・他都市の事例も参考にしながら、札幌の特性も踏まえ議論を進めていく